12月7日、8日　明治神宮会館で第14回コングレス

愛とサイエンスの融合ホメオパシー

日本ホメオパシー医学協会設立15周年

農業の重要性を説く

由井大会（コングレス）長、2日間講演

昨年の第13回コングレス

由井大会長

日本ホメオパシー医学協会（由井寅子会長）は今年で設立15周年を迎えるが、第14回目となるコングレス（年次学術大会）を12月7日、8日の両日、東京の明治神宮の森、明治神宮会館において開催される。今回の学術大会は「愛とサイエンスの融合ホメオパシー」をテーマに、未来に向けたホメオパシーの可能性、ホメオパシーの科学性、そして人、動物、植物におけるホメオパシーの改善・治癒症例、さらに農業の重要性などのテーマが発表される予定だ。全国JPHMA認定ホメオパスによる症例発表に加え、キューバからもグスタホ・ブラチョ博士も初来日し、国内外からの著名な講師による来賓講演も予定されている。

ここで、由井氏がホメオパシーの第一人者として療法家として、難病を診ていく中で、どうしても今、農業の問題を指摘し、推進していく必要がある理由をお伝えしたい。それは、２０１１年3月11日の大震災に起因する。由井氏が会長を務める日本ホメオパシー医学協会JPHMAは、大震災以後JPHMA災害支援隊を4回送って様々な支援を行ってきた。被災地とのかかわりの中で、もっとも急がなければならないもの、それはインナーチャイルドの癒しと農業であると由井氏はコメントしている。

「福島を支援するために訪れた時、私の営む日本豊受自然農でできたダイコン、コマツナ、イモ、キャベツなどを、車につめるだけ二十箱ほど持って行った。ホメオパシーをやっている私としては、レメディーやマザーチンクチャーが一番先に、皆さんがとるだろうと思いきや、福島の人々はこれらの野菜にとびついた。安全で自然な野菜を求めていたのがよくわかった。その時、災害時に新鮮な野菜がなく、食べ物に一番困ったと多くの人々から聞いた。この時に新たにもっと真剣に農業をやらねばならないと思った。そして、私達の野菜を買うのではなく、一人ひとりが庭や畑を耕し、自給自足することがもっとも大切なのだと思うようになった。そのために、まずは、私たちがやってみることを思い、すぐに農業を拡大するため、２００２年からやっていた函南の畑で、7反3畝の農地を広げるために、役場と農業振興会、自然農を推進してくれるＪＡと話し合いをし、農業生産法人日本豊受自然農株式会社を作り上げた。２０１１年、7反3畝から25反に広がった。試行錯誤しながら、自家採取の種にこだわり、農薬・化学肥料を一切使わない自然型農業を実現し、次の年から野菜を出荷できるまでになった。

そして、震災から1年後、２０１２年に、自給自足の勧めである日本豊受自然農・農業コース6回を立ちあげた。

人間は災害や飢饉が目の前に来ない限り、何も備えておかない悪い癖がある。このようなことは、いつでも起こり得るのであるから、日頃から備えることが大事である。最低、種と土地さえあれば、生き残っていけるのは、戦後、貧乏ながらも3人の子供を育てた、夫のいない母を見ればわかった。彼女は「土地と種さえ持っていれば、食べ物に欲をかかなければ、生きていける」と、常々私に言っていたことを思い出す。イモ一つがダイヤの指輪と交換なんてことは、いっぱいあったようだ。それでも、ダイヤは食べられないのだ。

そして、かてものと言って、雑草を食べる習慣を持つことが大事である。米沢藩の藩主だった上杉鷹山が、江戸時代、3回の大飢饉を乗り越え、米沢藩だけは餓死する人が一人もいなかったそうだ。私達は先人の知恵をひもとき、それを有効利用することである。まずは粗食に耐え得る体と心を作ること。農業をできる体力と気力と技術を養うこと。「百姓とは百の姓を持つこと」と聞いて、百姓は農業だけでなく、加工・家づくり・水ほり・暴風と、本当に様々なことができるから、百姓と呼ばれてきたのだとつくづく思った。

百姓を止めたい時もあった。百姓で良かったと思ったこともあった。それでもやっぱり百姓はいい。地面にひれ伏して暑い春、しその草取りはとてもつらかった。しかしその後のしその成長を見たら、その苦しみなんて何てことなくなった。8反近くの大豆を植えるためと土にうねを作り、種をまく仕事も辛かった。しかしその後大豆がたわわに実って嬉しかった。植えた作物が夏枯れて皆死んだのは悲しかった。でももう一度植え直した。雨が30日ぶりに降ってくれ芽が出た時は本当にありがたかった。ここで知ったことは、苦しみのあとには必ず喜びが来るということだった。

自然に感謝し自然を敬い、辛い時も苦しい時も必ず光がさすことを信じよう。この人生喜びを持って生きること、それには与えられた一人一人の仕事を不平不満なく忍耐をもって黙々とやること。あらゆる苦難が喜びに変わるためにインチャに気づき、自分を癒し自然に触れる農業を行おう。あなたが喜ぶことを神は願っている。本当に苦しみの後には必ず喜びがある。」

3／11以降、東北をまわり、被災地の方々の本音を聞き、見守り続けてきた由井氏の言葉である。

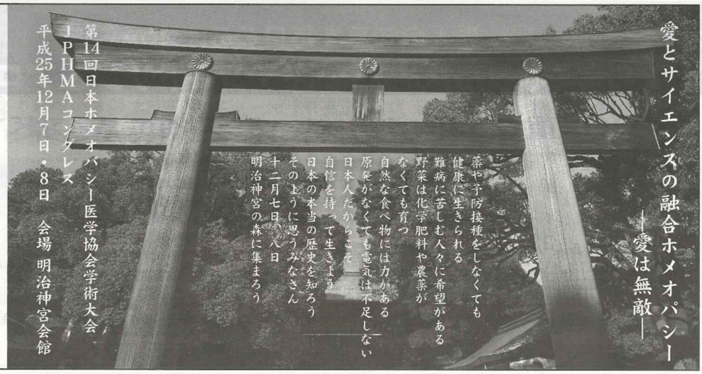
内海医師の講演も

14回目を数えるコングレス（年次学術大会）は2日間、行われるが、由井寅子大会長は両日発表することになっており農業の重要性、由井会長の20年の研究と臨床により開発されたホメオパシーの手法「ZENメソッド」により、改善している様々な難病の症例発表。そして、心の問題として問題視されているインナーチャイルドの問題がホメオパシーで改善していく過程と解決策を実例とともに発表する。ホメオパシーの症例発表に加えて、来賓の発表では、海外からはキューバでホメオパシーのレディーを使って２００万人以上の3地域のレプトスピラ感染症予防に成功したフィンレイ研究所のブラチョ博士も招いて、両日、日英同時通訳にての講演も予定している。

日本国内からも、水科学の研究では第一人者の川田薫博士、ホメオパシーの原理にもつながるナノバブル水の研究・応用で成果をあげられている高橋正好博士、新しい歴史教科書をつくる会の幹事長で、日本の本当の歴史を伝える藤岡信勝先生、精神薬の薬害の問題を追求し日本初の断薬専門のクリニックを開設された内海聡医師の方々の記念講演も行う予定。

コングレス1日目の終了後には、国内外の来賓者のウェルカムパーティーも兼ね、会場をベルサール渋谷ファーストに移し懇親会を開催することになっている。

また、前日の12月6日には明治神宮へ記念参拝、大会長による市民公開講座（参加費無料）「自己治癒力はすばらしい！人・動物・植物を癒すホメオパシー」も開催することになっている。



愛とサイエンスの融合ホメオパシー
―愛は無敵―

薬や予防接種をしなくても
健康に生きられる
難病に苦しむ人々に希望がある
野菜は化学肥料や農薬が
なくても育つ
自然な食べ物には力がある
原発がなくても電気は不足しない
日本人だからこそ
自信を持って生きよう
日本の本当の歴史を知ろう
そのように思うみなさん
十二月七日、八日
明治神宮の森に集まろう

第14回日本ホメオパシー医学協会学術大会
JPHMAコングレス
平成25年12月7日・8日　会場　明治神宮会館

平成25年12月6日（金）14時～16時
特別企画　コングレス開催記念特別講演
ホメオパシー市民公開講座開催
「自己治癒力はすばらしい！
人間・動物・植物を癒す
ホメオパシー」
講師　由井寅子ＪＰＨＭＡ会長
会場　明治神宮会館
参加費　無料　完全予約制

お問合せ：
一般財団法人日本ホメオパシー財団
ＪＰＨＭＡ日本ホメオパシー医学協会
〒154-0001　東京都世田谷区池尻 2-30-14
Tel：03-5779-7411　office@jphma.org